



TITLE:

論文投稿の前に知りたいオープンアクセス

AUTHOR(S):

八木澤, ちひろ

CITATION:

八木澤, ちひろ. 論文投稿の前に知りたいオープンアクセス. 2016: 1-34

ISSUE DATE:

2016-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/203652>

RIGHT:



OPEN ACCESS

論文投稿の前に知りたいオープンアクセス

八木澤 ちひろ - 医学図書館
YAGISAWA Chihiro , Medical Librarian





CONTENTS



1. はじめに：今日のポイント
2. オープンアクセスって何？
3. 学術出版のジレンマ
4. オープンアクセス方針がめざすもの



CONTENTS



1. はじめに：今日のポイント
2. オープンアクセスって何？
3. 学術出版のジレンマ
4. オープンアクセス方針がめざすもの



ABOUT ME

2010.04 - 2012.03 人文科学研究所 図書掛 掛員

2012.04 - 医学研究科 教務・学生支援室 図書掛（医学図書館） 掛員

保持資格：

- ・ 司書 2010.04-
- ・ ヘルスサイエンス情報専門員（基礎） ← New!! 2015.04-

2015.03にオープンアクセス講習会を医学部の研究者向けに開催

http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/eipage/doc/20150325-27_oa.pdf



ABOUT YOU

聴衆に想定：

本学の研究者で、

学術雑誌への投稿論文を今書いている・これから書くという方

オープンアクセスや**京都大学オープンアクセス方針**について知らない・聞いたことはあるが、経緯がわからないという方



TODAY'S POINT

今後、大学で研究者によって生産される

研究成果は、分野を問
わず基本的に**オープン**
アクセスにするもの

...と考えてください。そしてその考えを共有してください。



NEWS!

「国から研究費、論文を原則公開 ネット上で、根拠のデータも対象」
2016.01.24, 朝日新聞朝刊3面

“公的資金を使った研究について、政府は学術論文やデータをネット上で原則公開させる方針を決めた。（中略）成果を社会で広く共有し、研究の発展を促す狙い。”

※文部科学省 科学技術・学術審議会学術分科会 学術情報委員会（第6回）2016.01.22 に基づく記事



CONTENTS

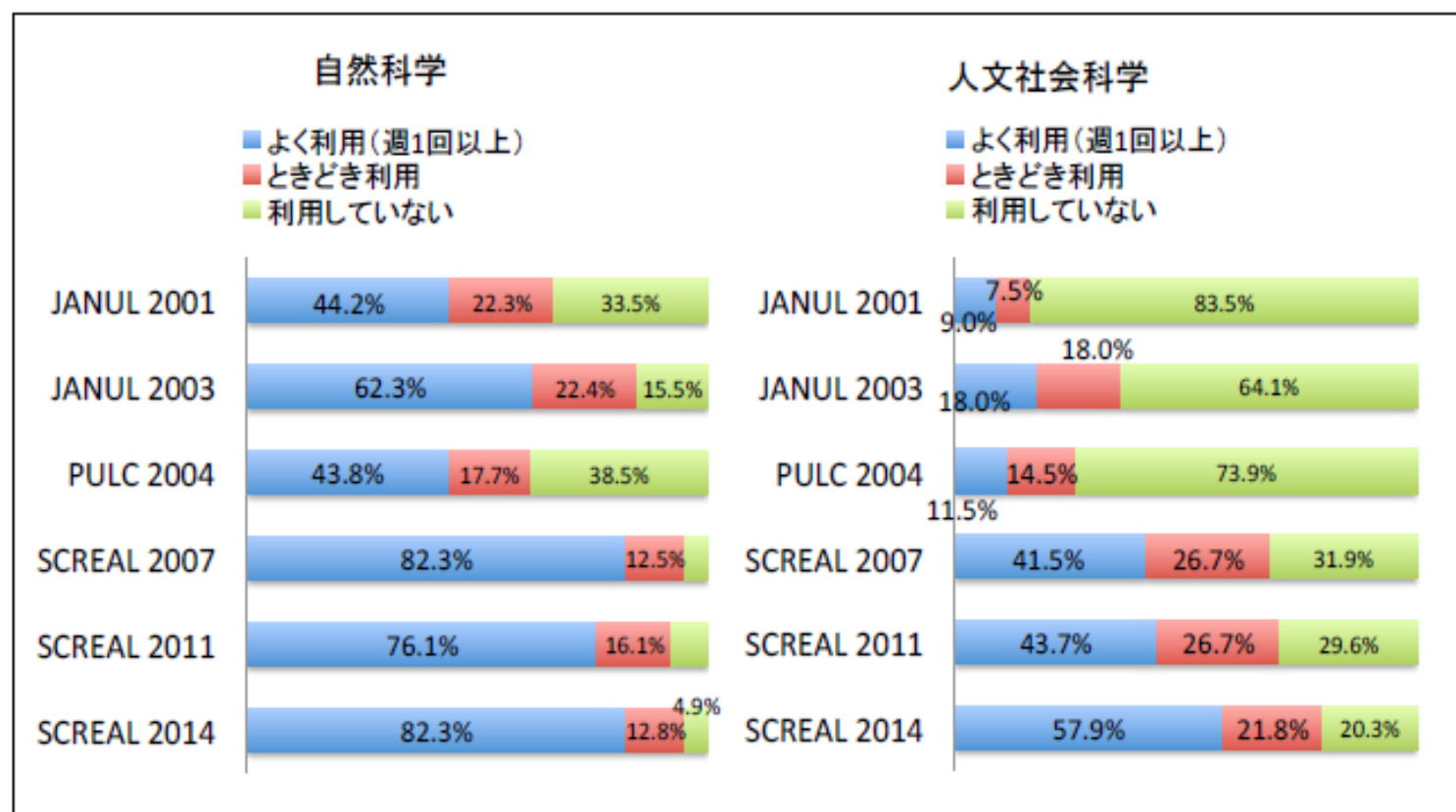


1. はじめに：今日のポイント
2. オープンアクセスって何？
3. 学術出版のジレンマ
4. オープンアクセス方針がめざすもの



E-JOURNAL

電子ジャーナルの利用度



学術図書館研究委員会. 「学術情報の利用に関する調査 2014」より引用 <http://www.screal.jp/>



WHAT'S “OPEN ACCESS”?

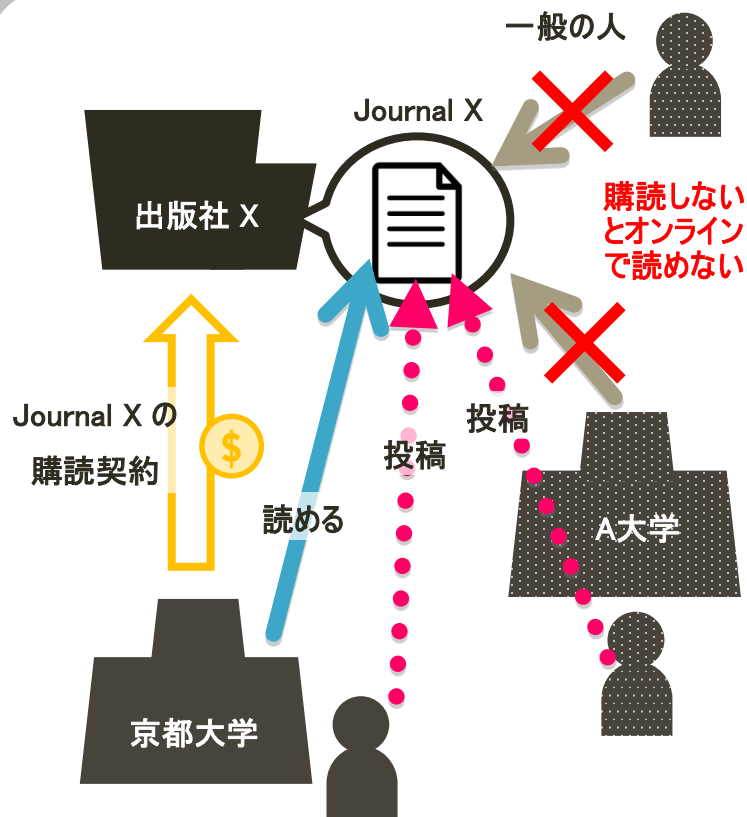
BOAI(Budapest Open Access Initiative)による定義（日本語訳）

“[ピアレビューされた研究文献]への「オープンアクセス」とは、それらの文献が、公衆に開かれたインターネット上において無料で利用可能であり、閲覧、ダウンロード、（中略）その他合法的目的のための利用が、インターネット自体へのアクセスと不可分の障壁以外の、財政的、法的また技術的障壁なしに、誰にでも許可されることを意味する。複製と配布に対する唯一の制約、すなわち著作権が持つ唯一の役割は、著者に対して、その著作の同一性保持に対するコントロールと、寄与の事実への承認と引用とが正当になされる権利とを与えるることであるべきである。”

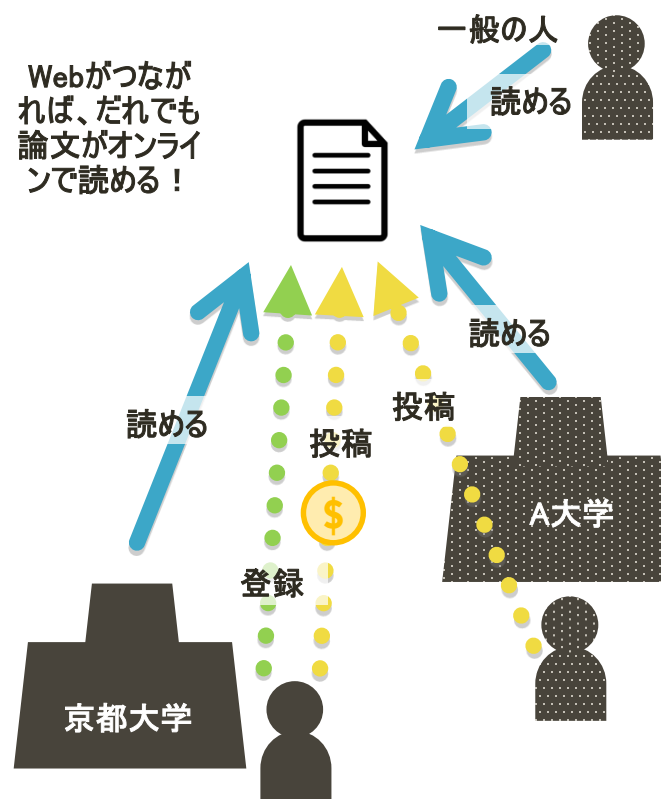
<http://www.budapestopenaccessinitiative.org/boai-10-translations/japanese-translation-1>

オープンアクセスとは、研究成果へ
インターネット上で障壁のないア
クセスを指す。

購読型電子ジャーナル



オープンアクセス



OPEN ACCESS BENEFITS



研究成果（論文）をオープンアクセスにするメリットは...

- 研究成果を社会に還元することができる（説明責任が果たされる）
- 研究のプライオリティを守る
- インターネット上で全世界の人に無料で論文を読んでもらえる（海外の研究者にも！）
- 論文が引用される可能性が高まる
- 新たな研究が生まれる可能性が高まる
- インターネットがつながれば自分の論文をいつでも確認できる

オープンアクセス



著者が論文をオープンアクセスジャーナルに投稿する、あるいは投稿時にオープンアクセスオプションを選択する。投稿にはAPCが必要。

義務化

著者が自身の所属する機関の機関リポジトリに論文を登録する。エンバーゴ（公開禁止期間）がつく・版指定があるなどの条件がある場合がある。



ARTICLE PROCESSING CHARGE

APC (Article Processing Charge)とは、雑誌に投稿する際、**投稿者が出版社等に支払う投稿料**のこと。額は雑誌により異なる（数万～数十万）。

雑誌によっては、京大所属者にはAPCの割引があります。投稿前にチェックしてください。

オープンアクセス費用の割引情報について –
京都大学図書館機構

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/lusr/apcdiscount.html>
[学内限定]



INSTITUTIONAL REPOSITORY

機関リポジトリとは...

学術機関の構成員によって生産された研究成果を保存・公開するシステム（日本の大学の約8割に構築済）

京都大学学術情報リポジトリ
KURENAI 紅
Kyoto University Research Information Repository

京都大学学術情報リポジトリKURENAI

2006年公開

収録論文：約13万件(2015.03.31現在)

論文ダウンロード：年間約565万回
(2014年度)



CONTENTS

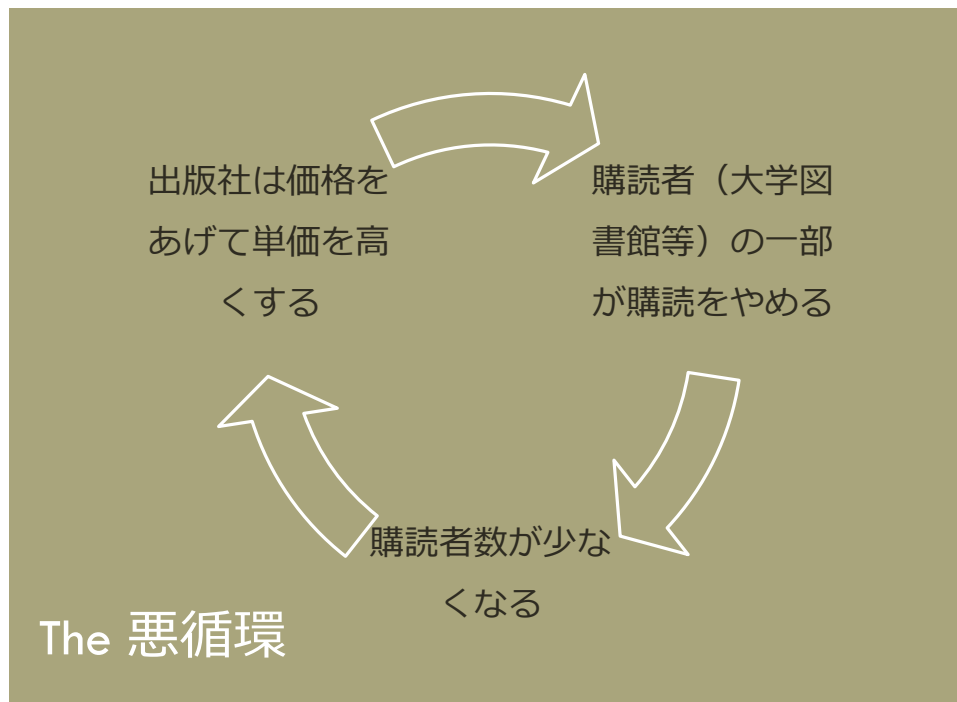


1. はじめに：今日のポイント
2. オープンアクセスって何？
3. 学術出版のジレンマ
4. オープンアクセス方針がめざすもの



SERIALS CRISIS

“雑誌の危機” – 学術雑誌の構造的矛盾：恒常的な値上げ



- 論文は代替物がない
= 競争が発生しない
- 論文量の増大
- 一部の出版社による
市場の寡占（とくに
外国雑誌）



BIG DEAL

ビッグ・ディール

それまでの購読費+ α で、その出版社の提供するほぼすべての雑誌を電子的にアクセスできるようにする電子ジャーナル独特の購読方式。

最初は状況を改善したようにみえたが、根本的な解決にはならなかった...

- ・ 購読規模を維持しなければならない
- ・ 永続的なアクセスではない
- ・ **値上げしつづける**

+ 円安 + 外国雑誌への課税 + 減りつづける資料費



“NOT PRICE BUT COST”

「価格ではなくコストの問題」

研究成果の出版・流通のコストをどう負担すべきか

Poynder, R. “The Big Deal: Not Price But Cost”. Information Today. Vol.28 No.8 2011.
<http://www.infotoday.com/IT/sep11/The-Big-Deal-Not-Price-But-Cost.shtml>

日本語訳は下記を参照

リチャード・ポインダー著, 尾城孝一訳「ビッグディール～価格ではなくコストの問題～」
https://nii-h9v6.movabletype.biz/content/justice/documents/Big-Deal_Japanese.pdf



MANDATE OF OPEN ACCESS

海外：大規模出版社への対抗という文脈で語られることが多かった。また日本の学術出版社は小規模で電子化をなかなかすすめることができないという背景があった。

「社会への研究成果の還元」「公的資金の説明責任」という観点からオープンアクセスが語られるようになってきている
⇒ 義務化の流れへ



CONTENTS



1. はじめに：今日のポイント
2. オープンアクセスって何？
3. 学術出版のジレンマ
4. オープンアクセス方針がめざすもの



OPEN ACCESS POLICY

2015.04.28 「京都大学オープンアクセス方針」 採択

京都大学は、出版社、学会、学内部局等が発行した学術雑誌（図書等を除く）に掲載された教員の研究成果を、京都大学学術情報リポジトリによって公開する。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/uploads/oapolicy.pdf> より引用・抜粋

じつはこれ...かなり**スゴイ!!**



オープンアクセス義務化の流れ

欧米を中心に

- ・ 公的資金を投入する研究の説明責任
- ・ 研究不正の発見・抑制

といった観点から義務化へ

京大オープンアクセス方針は、国内の大学でのオープンアクセス義務化に先鞭をつけました

参考：筑波大学、日本文化研究センター、九州大学でも同様の方針が出されてきています。



PURPOSE

研究成果は **「公共の財産」**

KURENAIで、皆さんの大切な研究成果を永続的に保存し、公開します！

COPYRIGHT POLICY



必要なこと：

投稿した論文をKURENAIに登録するには、まず投稿雑誌の**著作権ポリシー**で、リポジトリ登録可かどうか確認します。

さらに投稿雑誌によっては、

- ・リポジトリでの**公開開始時期が指定**（エンバーゴ期間の指定）
- ・**出版される版と同じ版面が使えない**（著者最終稿の指定）

などの条件※がつく場合があります。

※こうした条件を調べるには、Copyright Transfer Agreement (CTA)や、出版社等のサイトで著者規定をご確認ください。

参考：SHERPA/RoMEO <http://sherpa.ac.uk/romeo/>

学協会著作権ポリシーデータベース <http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>



OPEN SCIENCE

“オープンサイエンス”

研究論文のWeb公開 = オープンアクセス

研究の過程で発生した研究データ等も公開する = オープンデータ（データには著作権はない）

オープンな状態から生まれるサイエンス

学術情報流通だけでなく、研究の手法なども変化する可能性

研究者：

現在論文を投稿しようとしています。リポジトリへの具体的な登録手順を知りたいのですが。

図書館員：

論文を投稿する前に、

「京都大学学術情報リポジトリKURENAIへの登録手順」

http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/content0/index.php?content_id=90
をご覧ください。詳細な登録手順はそちらに記載されています。

投稿しようとしているジャーナルによって、リポジトリ登録の条件等が異なります。

もしご不明なことがありましたら、下記にお問い合わせください。

附属図書館電子情報掛 denjo660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

研究者：
学会誌の編集委員をしています。義務化によってどんな影響がありますか？

図書館員：
学会として著作権ポリシーを明確にされていますか？
学会誌への投稿論文について、リポジトリ登録の条件などの著作権ポリシーが不明な場合、投稿者からの問い合わせが増える可能性があります。まだ決めていないという場合はポリシーを作成されたほうがよいでしょう。
参考：学協会ポリシーデータベース
<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/index/>

もし、対象が学内発行物（紀要等）ならば、KURENAIを使って刊行するというように運用すれば、そのまま電子ジャーナル化およびオープンアクセスにすることが可能です。図書館までご相談ください。

研究者：

オープンアクセスジャーナルに投稿しようとしています。出版社サイトでオープンになりますが、リポジトリ登録は必要ですか？

図書館員：

京都大学オープンアクセス方針は、京都大学で生まれた研究成果を、リポジトリを使って網羅的に収集・保存・公開することを義務化したものです。どこに投稿しても、雑誌の著作権ポリシーを確認して、KURENAIに登録手続きをお願いします。

雑誌の著作権ポリシー等により、なんらかの理由でリポジトリでの公開が不可という条件がつく場合は、「公開不可」状態で登録ができます。登録の際に図書館にご連絡ください。

研究者：

他大学の研究者が共著者です。リポジトリに登録する必要がありますか。その場合はどうしたらよいですか。

図書館員：

著者のなかに京都大学所属者が含まれる場合は、義務化の方針が適用されます。登録が必要です。

登録手続の前に、他大学の所属の方を含め、共著者全員にリポジトリ登録の同意をもらってください。

研究者：

論文を投稿するジャーナルはオープンアクセスジャーナルでなければいけないのでしょうか。

図書館員：

いいえ。

投稿先のジャーナルの選択は、研究者の意志に委ねられます。

オープンアクセス方針は、研究者が論文をリポジトリ登録することを義務化したものです。投稿ジャーナルを制限するものではありません。

オープンアクセスジャーナルの出版社は、APCの利益のみを目的とした悪質なところがあるという報告（※後述）も出ていますので、むしろオープンアクセスジャーナルに投稿しようとしているときは注意が必要です。

投稿の前に、Impact Factorがついているか、DOIが付与されるか、Editorは信頼できるかなどを判断されることをおすすめします。



“ハゲタカ出版社”に注意



APCの利益のみを目的としたオープンアクセスジャーナルの出版社
投稿だけで無く，査読，編集などにも関わらないように

参考：単なる“金もうけ”の疑いのあるオープンアクセス出版社のリスト（2015年版）

Beall's List of Predatory Publishers 2015

<http://scholarlyoa.com/2015/01/02/bealls-list-of-predatory-publishers-2015/>

※リストを作成した個人の見解に基づくものです。京都大学図書館の見解ではありません。



CONTACT



リポジトリ登録についてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

附属図書館電子情報掛

✉ denjo660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

その他ご質問がありましたら、お近くの図書館員までお問い合わせください。

REFERENCE.

1. Suber, P. *Open Access*. The MIT Press, 2012.
2. Jisc. *OA good practice pathfinder update: Spring 2015*. <http://openaccess.jiscinvolve.org/wp/2015/06/01/welcome-to-the-oa-good-practice-spring-update/>
3. OECD. *Making Open Science a Reality*. 2015. https://www.innovationpolicyplatform.org/sites/default/files/DSTI-STP-TIP%282014%299-REV2_0_0_0_0_0.pdf
4. 倉田敬子. 学術情報流通とオープンアクセス. 勁草書房. 2007.
5. 佐藤翔. オープンアクセスの広がり と現在の争点. 情報管理. 2013. 56(7) p414-424.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/56/7/56_414/_article/-char/ja/
6. 高橋努. 大学図書館から見た電子ジャーナルの現状と課題. 電子情報通信学会誌. 2012. 95(1) p27-32.
<http://hdl.handle.net/2261/50457>
7. 筑木一郎. 図書館は出版社になる : 電子ジャーナル出版支援および大学広報としての京都大学学術情報リポジトリ事業. 大学図書館研究. 2009. No.85. p63-73. <http://hdl.handle.net/2433/85000>
8. 時実象一. オープンアクセスの時代. DHjp No.4 オープンアクセスの時代. 勉誠出版. 2014. p4-9
9. 林和弘. 世界のオープンアクセス、オープンサイエンス政策の動向と図書館の役割. カレントアウェアネス. 2015. No.324. p15-18. <http://current.ndl.go.jp/ca1851>

本スライド中のURLはすべて2016.02.01時点のアクセスによる。